

1 派遣期日 令和元年9月7日(土)

2 研修先 学校名 東京学芸大学附属小金井小学校

現在地 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~kanesyo/>

3 研修内容

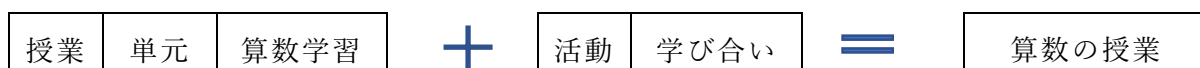
(1) 視察校における研究への取り組み

研究テーマ：算数・数学的に考え、算数的に表現し、学び合い高め合う子の育成
～「割合」指導の系統性を重視して～

東京学芸大学附属小金井小学校では、学校全体で『「こえる学び」を生む学習環境デザインの追究』を基礎テーマとして、各教科で研究に取り組んでいる。このテーマは、子供が自らの力で学びを見出す姿、学習環境と結び付き新しい知識をつくる姿とも言える。これらを基に、算数部では以下のように研究を行っている。

① 教材研究について

東京学芸大学附属小金井小学校算数部では、授業において大切にしなければいけないこととして教材研究に重点を置き、研究を行っている。子どもたちに身につけさせたい力、創り出してほしい数学的内容など、「子どもたちを育てるために、どんな教材をどう提供していけばいいのか」を明らかにしていくことが「教材研究」であると考えている。また、



と考え、授業を通して算数を教えるのではなく、子どもたちの考え方を育てることを目指している。

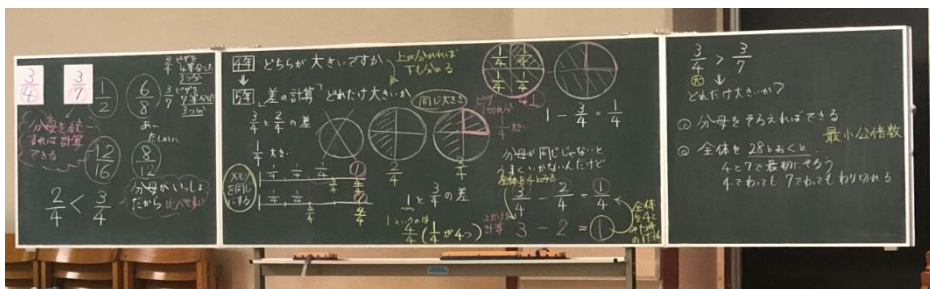
② 授業を通して

算数の授業を通して、算数を教えるのではなく、子どもたちの考え方を育成を目指している。思考力と表現力は互恵的な関係にあると考え、考え方の系統性を意識し、提案授業を組み立てている。この考え方の系統性として、関数や単位、割合の考えなどについて研究を進めている。また、小学校6年間を見通した数直線の指導や除法、分数量の教材配列の工夫なども視野にいて、研究を行っている。単元としては、割合、倍概念、除法の導入、単位あたりの量、数の獲得等に焦点を当てている。

4 授業を参観して

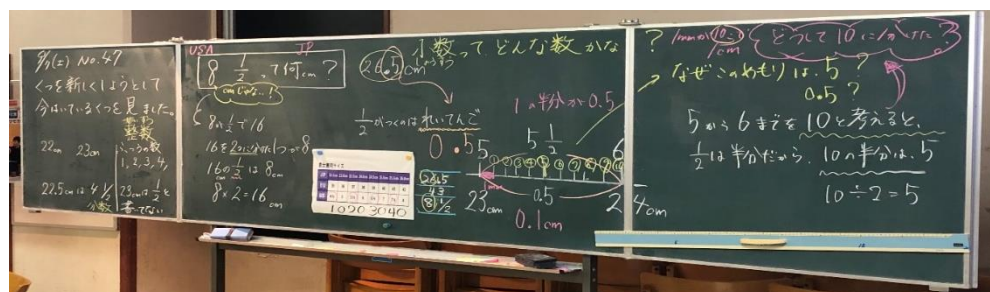
(1) 第5学年 算数科 「分数のたし算・ひき算」

本時はこの単元の第1次である。異分母間の大小比較を通して、「分母をそろえる」必要性の理解をねらいとした授業だった。そのため、導入では約分や通分などは行わず、図などを用いて分母をそろえる必要性を意識させるために、話し合いに重点を置いていた。児童は、数直線を使ったり、円を使ったりしながら大小比較していた。グループワークもあり、自分の考えを説明することや、意見交換をする工夫がされていた。



(2) 第3学年 算数科 「小数」

本時は、この単元の第1次である。身近な靴のサイズに着目し、表記が整数、小数の両方あることに気付かせていた。また、サイズ表記をアメリカのものと比較し、 $1\frac{1}{2}$ と0.5の意味を数直線を用いて考えさせていた。児童は互いに自分の考えを伝えながら、小数とはどんな数かについて理解をしようとしていた。



5 感想

- (1) どちらの学年の児童も、自分の考えを図を使って表す姿があり、他へ自分の考えを説明する力が身に付いていた。
- (2) 児童の発言や考えを使って、授業を展開していた。教師側からの一方通行ではなく、児童主体の学習になっていた。
- (3) 児童が発表したときに、必ず教師が「なぜ?」「どうして?」と発問をし、より考えを掘り下げていた。また、発表した児童との1対1ではなく、周りの児童にも「〇〇さんの説明はわかった?」など声をかけることで学級の全員が考えを深める姿が多く見られた。児童と1対1になってしまうことが多い自分自身を振り返り、この研修で学んだことを実践していきたいと思う。